



端溪硯・旧坑仔巖：壽雲廻紋円窓硯（1972～1980年）

寸法：8吋（直径20糎×厚4糎×重1.72匁）

坑仔巖は、老坑から600m離れた南上の山腹2合目が坑洞。宋代治平年間の開坑。端溪三大名坑の第2順位で、明清時代の老坑と称されるほどだが、この坑仔巖や第3順位の麻子坑が騙られている。ものによっては、老坑と遜色ないどころか、それ以上の硯材も多いということであろう。硯材が尽き一旦閉坑され、1972年に再開し、1978年には約30m上の位置、標高125mに10以上の新坑が開鑿され、坑仔巖新坑として定められた。しかし、旧坑は1980年に、新坑は2000年にいづれも閉坑され、現在はコンクリートで塞がれている。注意したいのは、現在流通する沙浦坑区の硯材によるものも、坑仔巖新坑と呼ばれることから、これを新坑仔巖や沙浦坑仔巖との呼称や表記で区別し混乱を防がなければならない。

震災で資料を失し、かなり怪しい記憶だけを頼りにすれば、20〜25年ほど前、今は辞してしまった懇意の業者氏から入手したものであったか。廃業書家や書家遺族の放出品ということで50面ほど持ち込まれた内の1面。旧坑の坑仔巖。つまり、本家本元の坑仔巖である。バブル期に入荷したらしく、かなり高額な値札がそのまま貼付された未使用品である。魚腦凍や火捺、臙脂暈が豊かに表出し、硯側の大きな翡翠も美しい。硯陰（裏・背）は、全面が墨池になっており、鋒銚も眼立ててであることから、使用時には、この硯陰を。机上の錦上花としては硯面であろうか。何れにしても、硯側の翡翠が眼につく角度が好ましい。先述の通り、被災した流出回収品で、余り気にならない程度の、スレや小傷も散見するが、価値観を損なうまでではない。

※詳細解説は、「墨硯齋（墨州院ホームページ内）」に掲載。

墨

州

2024

二月号

No.551

第38回 書壇受賞に輝く作家展

2024年2月6日(火)～11日(日)
東京・銀座「セントラルミュージアム銀座」

各団体の最高賞受賞作家による展覧会「書壇に輝く作家展」が東京・銀座「セントラルミュージアム銀座」で開催される。書道研究墨州院からは、第74回毎日書道展において漢字部最高賞となるグランプリ(会員賞)を受賞した菊池蒼雲が出品する。今展覧会のために新作を制作した。



第74回毎日書道展 —漢字部グランプリ— 菊池蒼雲



遐壽無極／8尺×2尺

2024書家による 新春年賀状展

2024年1月7日(日)～15日(月)
東京・大崎「ウエストギャラリー」

年賀状は日本文化を代表する行事の一つです。この良き手書き文化を300年以上保存し筆文化を残し広めたいという趣旨の「書家による新春年賀状展」は、今年で9回展となりました。国民的な行事である年賀状は、世界的に見ても珍しいものですが、最高峰の書家による年賀状の保存は当協会の夢でもあります。12年間では500通近くの素晴らしい賀状が保存されることとなりますので、30年後には国宝級の文化遺産になるでしょう。(一部抜粋)

大崎ウエストギャラリー
(一社) 国際文字文化普及協会
美術新聞社
長野県栄村「白い森の美術館」



菊池蒼雲

師匠

菊池海雲・明石春浦
金子卓義・千田得所

作品評価額

約145万円(半折軸装)

※国際芸術家年鑑2021

主な役職

毎日書道展漢字部審査会員
毎日書道展東北仙台展常任理事
一瀾書道会副理事長・事務局長
気仙書友会会長



龍



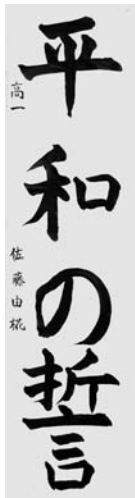
壽々令和甲辰歳旦

第38回サン・リア書初展

会期：2024年1月20日(土)～28日(日)

会場：岩手・大船渡「サン・リアショッピングセンター」

無鑑査



佐藤由栞



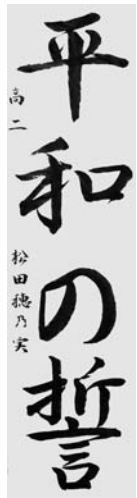
菊池七実



長山実央



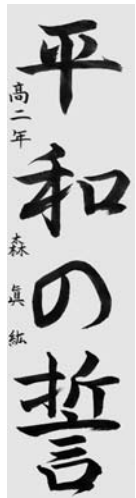
川畑結愛



松田穂乃実



金野里梨子



森 真紘



金野伶音



川上仁愛



直井陽那乃



佐藤 心



千葉遥月



伊藤咲弥



松田成世



菅原佳子



槻館舞羽



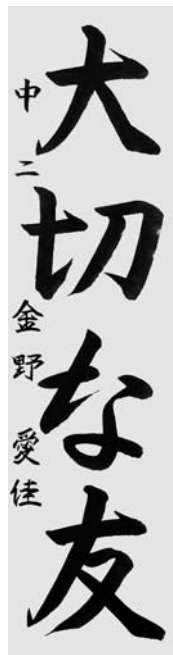
吉田優里

墨州院特別賞



荒木菜凜(小友)

大賞



金野愛佳(中妻)



サン・リア創業以来の継続文化事業である「サン・リア書初展」が第38回展を迎え、今年も気仙地区をはじめ県内各地の幼年から高校生までの数多くの作品が寄せられ、墨州院からも多数入賞した。

漢字部規定

初心〜中級は、この手本に忠実なものを求める方が学び易い（課題Aは原寸大赤刷手本綴込）。
 上級は、この書風に捉われず、古意を採り入れた自由な表現を求めること。

独坐幽篁裏 弹琴復长嘯 深林人不知 明月来相照 (王维)

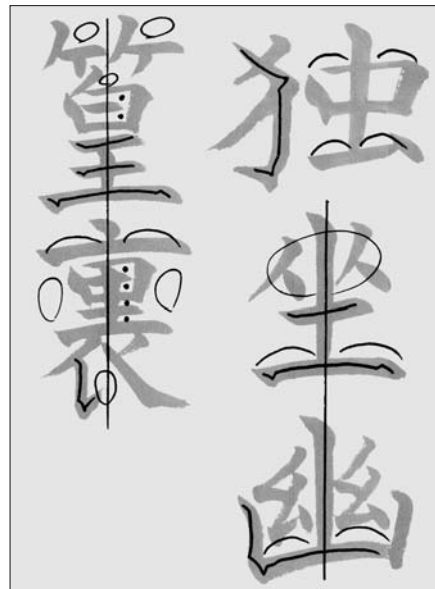
ただ一人奥深い竹藪の中に座り、琴を弾いたり詩を吟じたりしている。
 この奥深い竹藪は人に知れることもなく、月だけが、私を照らしてくれている。

課題 A

(課題A・B・C/行書体/行草書体) 主宰 菊池春苔書



図解



●：等間隔／○：充分空間／◎：筆法注意

独 坐

独 9画 独独独独独独独
 坐 7画 坐坐坐坐坐坐坐

【古典に学ぶ】



歴史的に評価の定まった先人の筆跡を「古典」といい、これを倣うことを「臨書」という。古典を鑑賞・臨書することは、書学習の基本です。
 【課題A】は、主に左の二つの古典を採り入れています。

課題B(二段〜五段)



課題C(五段〜)



行書体



行草書体



▼王維(六九九〜七五九)：中国・唐時代(盛唐)を代表する詩人。中国自然詩の完成者とされるほか、南宋画の祖と仰がれる。

【古典の反映】

古意を採り入れた表現を求めるには、様々な古典の鑑賞・臨書が大切です。また、左に掲載した以外にも、数多くの古典に触れることで、幅広い表現法が身に付きます。

牛概造像記(?)

遲為止息牛欄

鄭羲下碑(鄭道昭)

伊昔桓武

雁塔聖教序(褚遂良)

不惑形潛莫

建中告身帖(顏真卿)

外服勞社稷

蘭亭序(王羲之)

翹含萬殊靜
於所遇輕得

舍舟五律(倪元璐)

系舟而歎陸如
百未滑於身

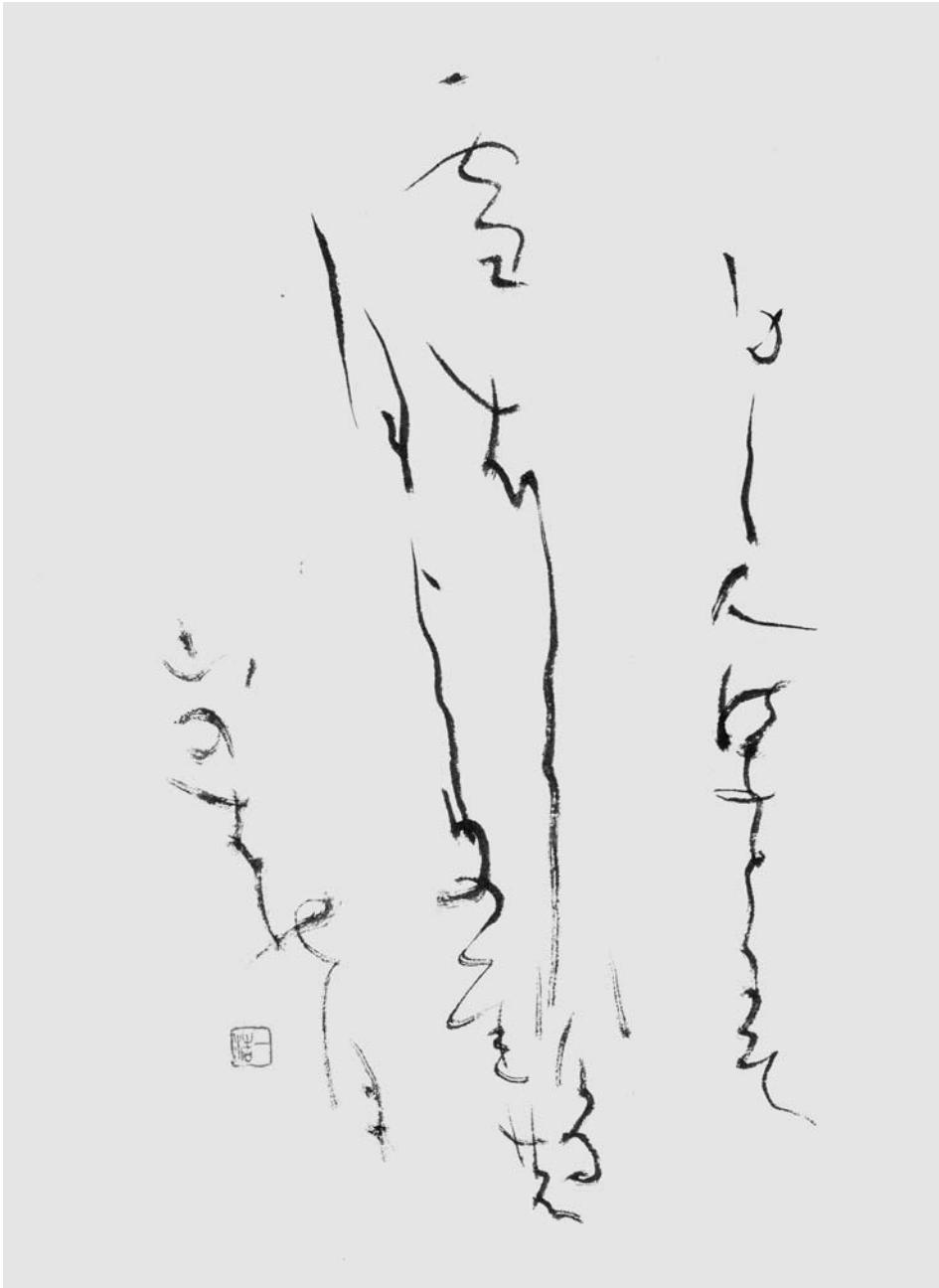
かな部規定

初心は、かな基本編（別冊テキスト）を経てから散らし書きへ進むこと。中級までは、この手本（巻末に原寸大赤刷手本綴込）に忠実なものを求める方が学び易い。上級は、この書風に捉われず自由な表現を求めること。

ゆく人の^能 跡に^{あど}ぞ雪は^者 知られ^しける^介 月より^与後の^利 山の^者端の^能月^{ふじわらのよつね}
 行く人の足跡によって雪が降っていたのだと知られたことよ。月が沈んだ後の山の端の月よ。

散らし書き（秋篠月清集）

客員教授 福島一浩書



▼藤原良経（一一六九〜一二〇六）…鎌倉初期の歌人。九条兼実の次男。藤原俊成に和歌を学んだ。『秋篠月清集』は良経の私家集。

～美学と流儀～ 一浩の眼



福島一浩（昭和三十年一月一日生／東京都出身）

- ◆主な役職・略歴◆
- ・二松學舎大学前副学長・文学部教授
- ・日展会友
- ・読完書法会理事
- ・（公社）全日本書道教育協会理事長
- ・個展複数回開催（銀座）

感情の高まりと沈み、密と疎を意識します。これらは時間の経過と共に移行行く表情として表れますが、平安の古筆では、いずれの名筆にも見られるのですが、左回転、右回転、直下など、中心となるリズムが大切。前回に述べましたが、面の美の要素として意識が求められます。

■第一行：「人の」と前後「く」「あ」に見られる感情の高まりを。■第二行：「雪は」での左右の振幅から「しられ」への縦への転換。行の上部下部が密。■第三行：「月」は上部への空間と次の文字「よ」への連係を担わせます。「りの」の密に続いて「ちの」への転調。第二行との密な関係ですが線の太細が密着度を高めます。又、この行の傾斜が四行の一体化を導きます。■第五行：「山の…」は第三行より一段と傾斜させ左横展開の面を生みます。一番多い墨継は第三行の「月」です。

行頭の高さや行脚の高さにも充分配慮してください。



細字部規定

面目躍如
めんもくやくじよ

評判通りに目覚ましい活動をすること。

勇猛果敢
ゆうもうかかん

勇気があり思い切って実行に移すこと。

我田引水
がでんいんすい

物事を自分の利益になるように引き付けて言ったりすること。

楷書体・行書体

錬士 武川象濤書

面目躍如 面目躍如

勇猛果敢 勇猛果敢

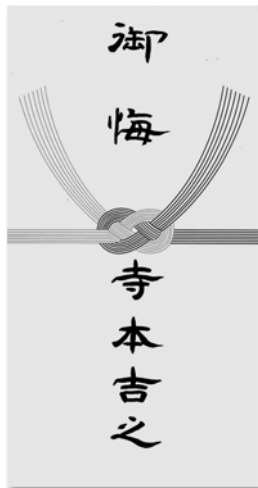
我田引水 我田引水

教室名 段級位 姓号名書

▼四字熟語…漢字四文字で構成される言葉で、一般に慣用句的に用いられる言葉。

实用楷書にも活かせる、端正な造形美で表現している。上級は、この書風に捉われず、自由な表現・書体を試みたい。

实用書に活かす



結切：凶事全般



蝶結：一般慶事



結切：結婚祝

寸志…慶事に使用。
志…凶事に使用。(淡墨または青墨を使用)
◎紙面が傷つく筆記具(ボールペン等)は、使用しない。
◎水引は、繰り返し起きてほしくない事柄の場合、結切りを使用。
(例…結婚祝・凶事全般)

條幅部

同課題であれば、掲載課題以外にも、行書体・篆書体なども可。
上級は、創意工夫を試みたい。

寒郊無留影（江淹）

冬の郊野には人影ひとつ見えない。

楷書体

主宰 菊池春苔書

寒郊無留影

行書体

錬士 菊池苔鳳書

寒郊無留影

行草書体

寒 郊 霖 留 景

主宰 菊池春苔書

隸書体

寒 郊 霖 留 景

鍊士 菊池苔雲書

▼江淹（四四四〜五〇五）…中国・南北朝時代の文学者。貴族社会の最中、文才と時局を見定める能力で高位に上り詰めた。

挑
戦

條幅部は筆法や空間美（空間処理）の研究につながります。段級位問わず積極的に挑戦することで、他部門との相乗効果による実力向上を図ります。

漢仮交文書部

この部門は、線質美・墨色美・構成美・余白美などの豊かな書表現を求めるため、様々な文字遣い・書体を用います。可読性の有無に関わらず、装飾性や書への親しみや楽しみを味わいましょう。

半紙

銀の空

主宰 菊池春苔書



広がる表現法



作品の表現は、文房四宝（筆墨硯紙）の選び方によって、多くの変化をつけることが出来ます。

①筆：柔毫・剛毫

②墨：色・濃・淡・潤・濁

③紙：吸墨性あり（滲み易い）
吸墨性なし（滲みにくい）

①～③のそれぞれの組み合わせ・調和によって作品のイメージも変わります。また、構成の工夫も表現の一つです。
▼掲載の手法に拘らず、自由な表現を楽しみましょう。

半折

しら梅や

紅梅雪に

染まりけむ

（北川吉史）



主宰 菊池春苔書

▼北川吉史：文筆家。現代感覚的で端的な口語遣いに、文語表現も織り交ぜた詩情を、時には直截的にあるいは間接的に詠む。漢仮交文書作品の表現に最適な文字遣いである。

書のナビゲーション



恵方／半紙
縁起の良い方角＝吉方

書ムリエ

きく ち しゅん たい あきひこ
菊池春苔 (明彦)

◆師匠◆
作品…明石春浦
"…金子卓義
古典…菊池海雲
篆刻・刻字…千田得所

◆主な役職◆
毎日書道展漢字部審査会員
東北仙台展常任理事
一瀾書道会副理事長・事務局長
気仙書友会会長・審査委員長
サンリア展審査委員長

文房四宝

- 筆：兼毫羊毛ムジナ（神技堂） @4,400
- 墨：書法一品（墨運堂） @935（200ml）
- 紙：台湾風漣佳鳳（墨州堂） 半紙100枚 @2,200
- 印：松尾碩甫（4分角）
- 印泥：西泠印社紅朱硃（1両装） @5,500

このコーナーは、書ムリエの作品披歴が目的ではなく、筆墨硯紙の知識や情報を紹介し、用具・用材への意識を持ちながら揮毫することの一助となればと願っています。用具・用材の相談や質問を受け付けます。

ナビゲー書ン

残念ながら、揮毫時の覚書を失ってしまったようである。10月の揮毫であることは間違いないが、他の日時や気候状況は不明である。臆げな当てのならない怪しい記憶を頼りに記述を試みる。

筆の性能を活かした、カリッとした線質・強く瀟洒な細い線で、リズムカルなスピード感を意識した。「恵」は窮屈感のない密度で、「方」は間延びしない疎で組んだ。半紙という狭い紙面の余白を活かすべく、紙面が広く見えるように意識し、布置を考慮した。文字を紙面中央部に配し、「恵」の最終画の点を右上に大きく飛ばし、側款を2行に段差を設けて配し、紙面下部の余白を広く採った。逆筆・蔵鋒を多用し、鋒先の引っ掛かりや速い運筆による線が活きたかと思う。

この原稿は1月12日(金)9:30の記述である。歳末・年始は、墨硯齋の仕事が多忙過ぎた。大晦日・元旦も引き合いがあり、本業では、東京教場・4書展廻りの2泊3日の出張もあった。元旦から能登半島震災。東日本大津波震災被災者としては、とても他人ごとではない。心が抉られている。何かしらできる精一杯の支援をと考えている。次いで羽田空港の飛行機衝突。こちらは人災とされるが、能登半島への救援物資運搬の航行であったため、震災が無ければ起こらなかった事故である。つまり、能登半島の震災がもたらした不幸な事故ともいえよう。

紙の蘊蓄

紙の製造

紙の製造方法には「手漉き製紙法（以下「手漉き」）」と「機械抄き製紙法（以下「機械抄き」）」に大別される。「手漉き」は、

ほぼ100%「和紙」の製造法として使われている。一方、「機械抄き」は主に「洋紙」の工場製造法であるが、書道用紙を含む「和紙」製造においても生産性の向上や労力の合理化のほか、経済性や品質の安定性を確保するために、独自の工程を確立している。

ただ、「機械抄き」に使用される紙料には「木材パルプ・非木材パルプ」や「リサイクル（再生）パルプ」など製品の品質レベルに応じて様々な原材料が使用されている。

手漉き工房



機械抄き（洋紙）大規模工場



両種の違いは、当然のことながら「手漉き」は人の手を使って仕上げるのに対して、「機械抄き」は抄き工程の大部分を自動操作の機械（マシン）が使われるところにある。両種の最も異なる点は、「手漉き」は一枚ずつ取り上げ重ねていくのに対して「機械抄き」はトレットペーパーのように、相当な長さの紙が連結したままロール状に巻き取られていくところにある。

金崎峰萃（治信） 1957年 愛媛県(旧)伊予三島市生

- ・「紙のまち資料館」元館長
- ・英国王立芸術家協会会員
- ・書道パフォーマンス甲子園発起人
- ・書道研究墨州院参与



吳昌碩の展覧会紹介



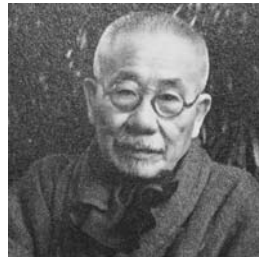
～生誕180年記念～ 吳昌碩の世界
 ①朝倉彫塑館 12/16(土)～3/6(水) ②東京国立博物館 1/2(火)～3/17(日)
 ③書道博物館 1/4(木)～3/17(日) ④兵庫県立美術館 1/13(土)～4/7(日)



吳昌碩

今回は展覧会情報をお届けしたいと思います。日本の東西四会場で開催される大きな規模の展覧会です。

日暮里駅徒歩5分の朝倉彫塑館では朝倉文夫（1883～1964）の作品も観ることが出来ます。吳昌碩に贈ったとされる胸像の原型石膏型残部や朝倉文夫と吳昌碩の交流資料と作品、孫松、王一亭、梅蘭芳らの書画作品も展示されており見応えがあります。展示替えも期間中にはあり、複数回行く事をお薦めします。



朝倉文夫文集『彫塑余滴』には、当時朝倉邸宅に逗留していた孫松との交流についての言及も有ります。それによると孫松は、元は蒲華の弟子だったそうです。その後、吳昌碩に書の益を受けて日本にやって来た様です。吳昌碩（1844～1927）と朝倉文夫は直接は会っていません。吳は日本に行きたいという強い希望を持ちながら結局来日は実現せず亡くなりました。むしろ、来日し長く日本に滞在した孫松との交流を通じて、当時の中国文墨界の覗う事になったのだと考えられます。文集『彫塑余滴』には孫松を洋風の応接間を開放し、画室にして与え、孫松が画を制作するところを観察する事が出来、その様子を記録しています。

記録しています。

「孫君は絵を描かんとする時には大テーブルの上に紙を伸べて、其の前に筆を持って立ち、いつもや

や久しく考えている、その間煙草を噛んで煙の中に顔を擧めて紙面をみつめているが、想到ると一気に筆を走らせて忽ちの中に鮮やかに描き上げる。『彫塑余滴』興味深い内容です。

朝倉はまた、同じ「南画観」の頁で次のような私見を述べてまとめています。これは我々書学者全体にも当てはまる教訓とも言えると感じましたので記録しておきます。

「(中略)二十歳や三十歳の弱輩に個性などが出てはたまったものではない。技術もなく鍛錬もない頭と腕で、解決されてゆく程芸術自身は都合よく出来てはいない。その意味で天才というものはあるものではない。」

朝倉は彫塑の世界の後進を育てるべく学校も創設しており、教育者としての見解も見て取れます。

篆刻家
 まつおせきほ だいすけ
 松尾碩甫(大輔)

昭和56年5月2日生
 東京都出身
 大東文化大学大学院修了
 中国美術学院留学
 読売書法会幹事
 謙慎書道会理事
 全日本篆刻連盟理事
 月歩会同人
 篆刻研究六華齋主宰

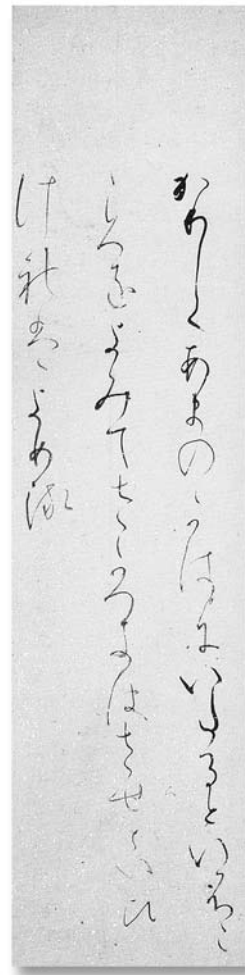


古典臨書部

課題 B

：『高野切第一種』

古典臨書は、技術を磨き、表現力・想像力を豊かにし、鑑賞眼を養うことができる、不可欠の書学習です。本誌の掲載課題に限らず、様々な古典・古筆に広く眼を向けて、臨書することを推奨します。



釈文

かりしてあまのがはにいたるといふ^{利豆可尔多不}
 ころをよみて、さかづきはさせ、といひ^{礼盤流}
 ければよめる

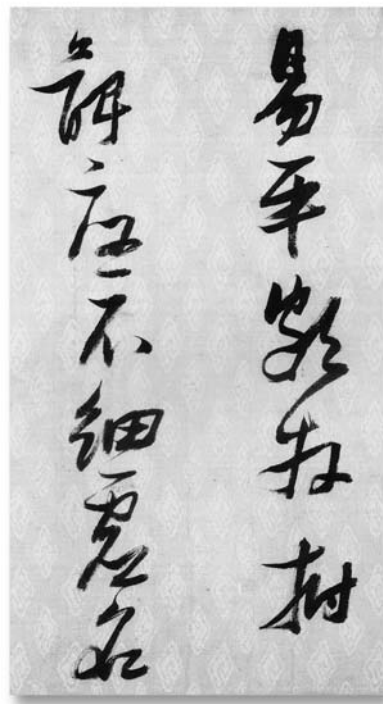


紀貫之 (866頃?~945頃?)

高野切は、『古今和歌集』の勅撰より150年後に書写されたもので、現存最古の写本で、高野山に伝来したことからこの名が付いた。当初20巻からなっていたが、のちに切り離され、現在は一部が断簡で残っている。筆者は紀貫之と伝えられていたが、実際は100年程後に3人の能書家が分担して書写(寄合書)したと推定され、その書風から第一種・第二種・第三種と分類される。第一種は、直筆を主とした優雅で落ち着いた運筆で、連綿は控えめである。

課題 C

：張瑞図『感遼事作六首卷』(一六二二)



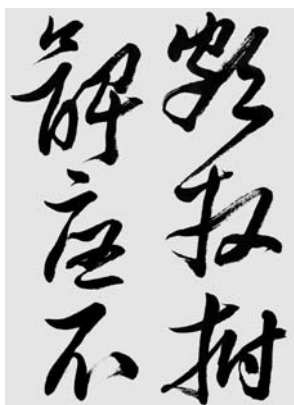
釈文

：易平。頗牧拊
 髀憂不細。虛名…

※太字は臨書参考例箇所。

臨書参考例 (半紙)

鍊士 菊池 苔雲 臨



張瑞図 (1570~1641)

張瑞図は、福建泉州の農家の出。進士に及第し、行政の枢機に参画したが、上司の失脚の連座で官位を剥奪された。晩年は、禪に心を寄せ、酒を好み、菊を愛で、詩を嗜み、詩文書画三昧の悠々自適な余生を送った。明末の四大家。

張瑞図は、木の枝から葉が落ちる様を見て、自己の書線を会得した、明末~清初の行草連綿書趣味の先駆者である。

この作品は、張瑞図52歳のもので、冒頭は、可読性を保持した行意を中心に、やや重過ぎるほど静かにゆっくりと、半ばから徐々に興に乗じて、明快極まりない運筆。最後は、より一層の軽妙さを表出している。

筆鋒がよく効きながらも、滑らかな線、広い行間は、観る者にとって、実に心地良く、張瑞図の傑作の一つに数えられることは間違いないであろう。

学生部規定（古典臨書部D）

学生部は、図版中の任意の連続した二文字以上を半紙に臨むこと。
一般部は、「古典臨書部課題D」として半紙だけでなく、條幅にも挑戦すること。



（拡大）

積文

肩水候官元康四年十二月四時雜簿。



編綴された木簡

居延漢簡（前93～98）

1930年、スウェーデンのスウェン・ヘディンを団長とする探検隊によって、中国・甘肅省の居延城址近隣一帯で発掘されたもので、本来の木簡の形状を留めている。近境の前線基地で働く兵士の行動を記録したもので、その数は1万点以上にも及ぶ。

木簡について

木簡とは、主に記録文書を、現代でいう割り箸（割る前）ぐらいの大きさの木片に書いたものを、麻紐で冊状に繋げたものである。その多くは、中国の何れも、ここ100年以内に発掘されたもので、今なお継続発掘・調査が行われている。この木簡の書風は、扁平で、独特の大きな波磔が特徴である。書体としては、隸意を中心としながらも、行意・草意を持った筆脈である。おおざっぱには、その結体から、隸書体に属するのだが、この独特の波磔や起収筆、字粒の極端な大小変化や大胆な線の肥瘦から、木簡調と呼ばれる。石碑に刻された文字とは違い、肉筆の書跡は、筆遣いを詳しく観察できる。

臨書習作例



鍊士 佐藤扇風臨

臨書参考例



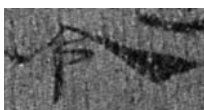
（半紙）

鍊士 菊池苔雲臨



（半折）

他の古典と比較!!



木簡



曹全碑

筆法特徴



- ・肉筆 or 刻された文字
- ・波磔の筆法の違い
- ・装飾性 or 実用性

教育部毛筆規定

教育部課題の学年配当漢字・読み・字体・総画数・筆順は、文部科学省学習指導要領に準拠しているが、常識的な書写体を用いる場合がある。

中学二・三年(中学二年は楷書可)

退 お
治 に

錬士 松尾蓮佳書

退 (9画) 退退退退退退退退退退

中学一年

ぬ 思
雪 物

錬士 眞壁紅蓮書

雪 (11画) 雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪

小学六年

う 国
想

範士 濱田郁恵書

国 (8画) 国国国国国国国国

小学五年

け 寒
明

教士 長澤千夏書

寒 (12画) 寒寒寒寒寒寒寒寒寒寒

▼手本揮毫委嘱者▼ (2024年2月現在)

《錬士》

菊池栖雲／眞壁紅蓮／菊池苔雲／菊池苔鳳／佐藤扇鳳
兒玉春苑／松尾蓮佳／佐藤翠嶺／中島州麗／及川汀雲
小松原朴象

《範士》

濱田郁恵／佐々木幸枝
荒木弘美

《教士》

金野友菜／長澤千夏
高橋由佳／中山ありさ
松田由希菜

小学四年

ん冬冬
みみ

教士 金野友菜書

冬 (5画) 冬冬冬冬冬

小学二年

豆ふく
く

錬士 及川汀雲書

豆 (7画) 豆豆豆豆豆豆豆

小学二年

トテ
ス

範士 荒木弘美書

テ (3画) テテテ

小学一年・幼年

みつ
ぼ

錬士 菊池栖雲書

み (2画) みみ

次号予告

中学一・三年…夢追い人／中学一年…卒業の日／小学六年…同じ道／小学五年…よせ書／小学四年…合かく／小学三年…かど出／小学二年…ヨツバ／小学一年・幼年…わかば

◎教育部毛筆規定課題手本の揮毫は、墨州院認定指導者および、『書指導法特設科』修了者（錬士・範士・教士）に委嘱しています。

書指導法特設科

書道研究月刊誌『墨州』の教育部課題の手本揮毫者は、手本揮毫法や指導理論、古典臨書など、指導者として必要なことを月1回研究しています。
また、書道研究墨州院認定指導者には、この「書指導法特設科」を受講する義務が課せられています。
▼資格は下記の通り。1コマ2単位。()は資格取得条件段位。
教士…24単位(三段)／範士…72単位(五段)／錬士…96単位(八段)



ペン字部・教育部硬筆規定

教育部課題の学年配当漢字・読み・字体・総画数・筆順は、文部科学省学習指導要領に準拠しているが、常識的な書写体を用いる場合がある。

硬筆学習の すすめ

①正しい字形を学ぶため、「写し書き」をするべし!!

②筆順に注意して、手本をよく見ながら書くべし!!



一般部(課題B) : 主 宰 菊池春苔書 / 一般部(課題A)・教育部 : 錬士 菊池苔鳳書



※①・②を何度も繰り返し返すことが大切です。

※硬筆用の下敷を使用すると、書き易くなります。

※一般部・中学生は万年筆を、教育部は必ず墨州院指定ペンを使用すること。

一般(課題B)

赤き花 おしろひまとふ 紅梅の 昔語り に 白梅と聞く (北川吉史)

赤支き花 お悲しろひ止まとふ 紅梅能の 昔む語り可に 白梅しと聞難く (北川吉史)

一般(課題A)

竹節から孫たちが大暴れした
せぞ 家じゅう豆だらけです

節分に孫たちが大暴れしたせいで家じゅう豆だらけです

中学2・3年

受験シーズ到来だ
体調管理に万全を期せ

験 18画 験験験験験験験験験験験験験験験験験験験験験験験験

中学1年

北国ではまだ冬真っ盛り
り雪や氷柱がたくさん

国 8画 国国国国国国国国国国

小学 4 年

年 6画 年年年年年

今年は雪ダ
ルマを見か
けません

小学 5 年

歩 8画 歩歩歩歩歩歩歩歩

氷柱の下を歩
くのはキケン
です

小学 6 年

残 10画 残残残残残残残残

冬の名残り
がなかなか
去らない

小学 1 年・幼年

太 4画 たたたた

まめはとし
のか ずだけ
たべます

小学 2 年

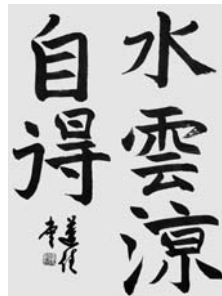
知 3画 チチチ

バレタイ
ンの チヨ
コをつ
くる

小学 3 年

形 7画 形形形形形形形

ハート
やホシ
の 形の
クツキ



漢字部《規定》
▽松尾蓮佳(駒込・教授)
横画起筆はもっと縦に入
りたい。それ以外はまず
まず可。



▽濱田郁恵(中央・準七段)
他が良かっただけに「涼」
の横画が短過ぎたのは残
念。



▽及川美香子(中妻・準五段)
この階級であれば、手漉
紙を使いたい。線や墨色
の映えが違う。



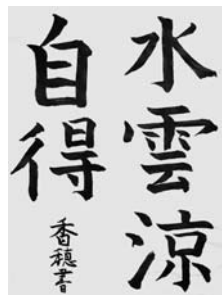
▽村上サキ子(綾里・準三段)
「水」縦画が細過ぎた。
他はまずまずの出来映え
だけに惜まれる。



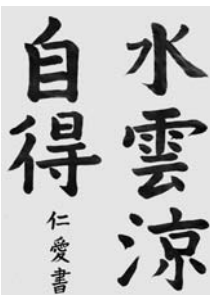
▽角地桂子(中央・初段)
『水』最終画撥ねが乱れ
た以外、この階級では申
し分なし。落款「桂」の
『木』が『ナ』になった。



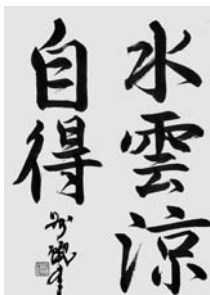
▽丸山一枝(横浜・初段)
今回はいつもの精彩を欠
いてしまい残念。「雲」
「涼」横画の長さが不足
した。撥ねの筆法を得た
い。



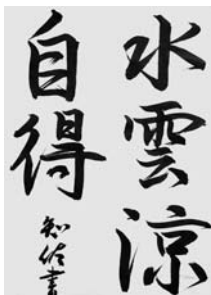
▽金富香穂里(小友・特級)
この階級としては造形ま
ずまず。線の太細、特に
肉付を意識したい。



▽川上仁愛(中妻・4級)
紙をマス目に折ることで
字粒が揃い過ぎ、文字の
持つ造形性や画数による
大小が不自然になる。



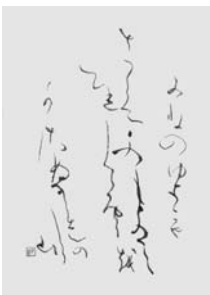
漢字部《行書体》
▽中島州麗(埼玉・十段)
これに線のメリハリや、
もう少し動きがあれば更
に良くなる。



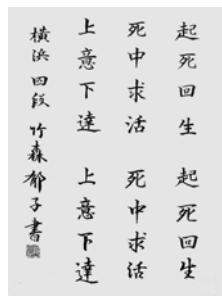
▽高橋知佐(中井・準二段)
造形的にはまずまず。あ
まり曲線というか湾曲を
意識し過ぎないこと。



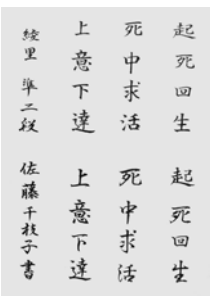
漢字部《行草書体》
▽佐々木幸枝(小友・七段)
線に肉がない分キリリと
は見える。太細の変化も
欲しかった。



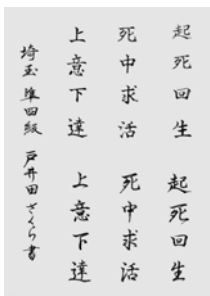
かな部《規定》
▽長澤千夏(東京・準初段)
やや筆画に怪しさもあり
ますが、動きは良く、視
覚的效果は抜群です。



細字部《規定》
▽竹森郁子(横浜・五段)
行書の「下」が拙かった
のは悔やまれます。この
階級ではほぼ申し分ない
だけに、特に目立ちます。



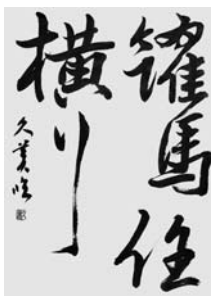
▽佐藤千枝子(綾里・準二段)
造形的には能く出来てい
ます。線が細く貧弱で太
細の変化に欠けました。



▽戸井田さくら(埼玉・準4級)
この階級では申し分なく、
素晴らしい出来栄です。
手本より多少大きく太め
に書いても可です。



古典臨書部《課題C》
▽佐藤苔翠(横浜・秀位)
偶々、出来は良かったも
の、思い付きではなく、
継続した研究を期待しま
す。



▽小野寺久美(中央・佳位)
文字自体は能く練られて
います。右に寄せ過ぎ、
紙面収まりが拙かったの
は惜しまれます。

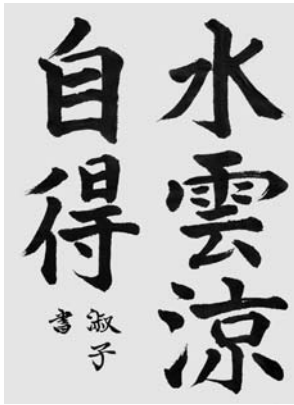


漢仮交文書部《半紙》
▽熊谷信子(綾里・入選)
線自体はまずまず。全体
的に線が細過ぎ、密度不
足にも繋がった。

審査・寸評担当者

菊池春苔 (全部門) / 福島一浩 (かな部) / 武川象濤 (細字部) / 菊池栖雲 (教育部毛筆)
菊池苔鳳 (教育部硬筆) / 菊池苔雲 (條幅部隷書体・古典臨書部・学生部)

優秀作品



漢字部《楷書体》
▽野澤淑子（上山・準4級）
造形的には安定感あり。起筆角度をもう少し縦にし、線の中央部で力を抜かず、徐々に力を込めるつもりの運筆を心掛けた。落款の研究を。

学生部

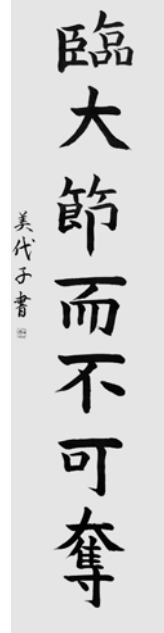
競書大賞



臨『乙瑛碑』
▽藤原來未（駒込・三段）
能く捉えた。このまま、もう少し強い線であれば申し分なし。



條幅部
▽菅野恵里（中央・佳位）
字粒がバラバラ過ぎたのと、中心が狂った。佳い線も垣間見られるだけに惜しい。



▽平美代子（小友・入選）
線はブッキラ棒で抑揚不足も、造形的には特に破綻がなくまずまず。側款、もう少し流れを。



▽児玉春苑（府中・秀位）
基本的筆法まずまず可。後半気になる。「不」は横画長く縦画を短く。「可」「奪」が小さ過ぎた。側款、等間隔にしない。



▽平田睦子（中央・入選）
丁寧な運筆可。後半が貧弱になった。特に「可」の最終画をもう少し引いてから払い出しを。



▽菅原誘花（一関・秀位）
線は出ている。全体的に墨量が不足したのと、墨量変化がなかったのは惜しまれる。



▽播磨蘭粧（宮古・入選）
基本的には線も能く出ているが、運筆に慎重になり過ぎたか、メリハリが不足したのは残念。側款、置きに行かない。

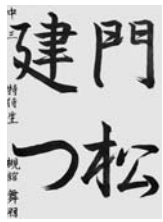


▽荒木弘美（小友・入選）
大ききの割に線が細く密度が不足した。基本的造形・筆法は可。

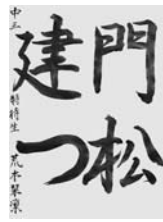


漢仮交文書部《半折》
▽吉田翠芳（中央・秀位）
全体的に墨量が少な過ぎたのは残念。「重」誤字。

特 待 生



槻館舞羽



荒木栞凜



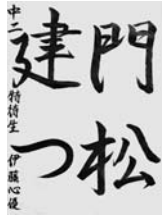
伊藤咲弥



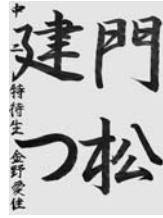
荒木栞蓮



吉田優里 (中央)



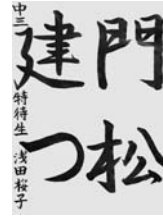
伊藤心優



金野愛佳



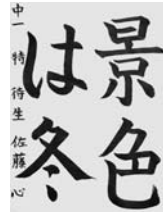
千葉遙月



浅田桜子



川上仁愛

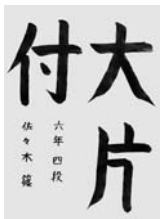


佐藤心

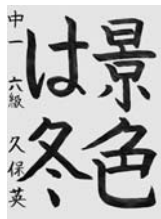


角館実咲

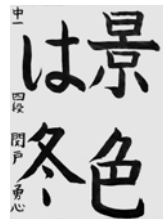
優 秀 作 品



佐々木篠



久保英



関戸勇心



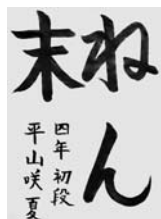
佐藤泰生



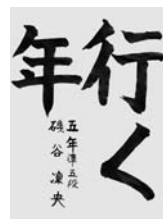
沼田育美



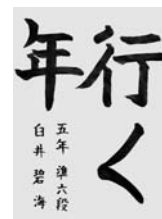
山下紗菜



平山咲夏



磯谷凜央



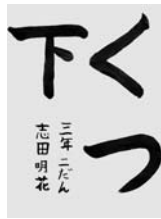
臼井碧海



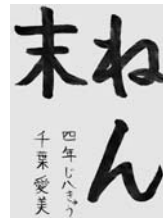
内金崎佑生



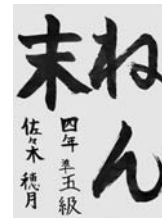
宮崎千色



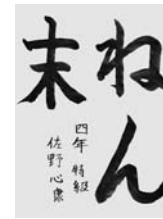
志田明花



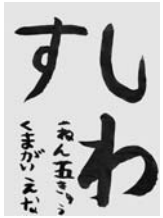
千葉愛美



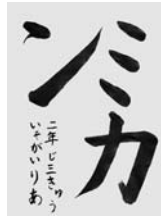
佐々木穂月



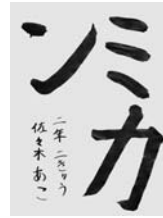
佐野心康



熊谷恵奈



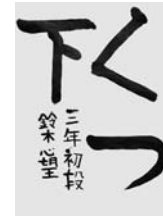
磯谷莉空



佐々木あこ



米澤彩羽

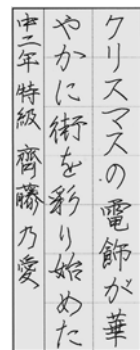


鈴木心望

競 書 大 賞



和泉結空 (中妻)



齊藤乃愛 (駒込)

第551回 (2024年1月10日締切課題) 月例競書成績表

この名簿は、各部門の上位(教育部は高学年の高段級位)から順に掲載している。幼年には段級位制を導入しない。小学入学時に実力相当段級位に編入する。各規定部は、それぞれ独立しているので注意すること。成績表の見方:◎競書大賞/☆特別昇格/◎写真版(昇級)/○昇級/◇優秀作品/◎長期競書不出品再開/※作品不備(没書扱い)。

Table with columns for categories like 漢字部, 規定, 教壇, 競書大賞, 特別昇格, etc. Each cell contains names and their respective grades/levels.

第38回サン・リア書初展

墨州院特別賞

サン・リア大賞



荒木菜凜 (小友)



金野愛佳 (中妻)

▲ 無鑑査昇格 ▲

無鑑査	小佐 佐々木夢琉 【中学三年】 盛 水野 椿己 【中学二年】 中井 佐藤 泰生 【小学六年】 長谷 稻澤 麗珠 花卷 高橋 桃佳 【小学五年】 矢野 千葉あかり 赤崎 磯谷 凜央 中央 松川 明椰 【小学六年】 矢野 内金崎佑生 長谷 千葉愛菜美 米崎 覚張 成海 【小学四年】 小佐 佐々木夢空 矢野 佐々木結季 【小学三年】 福室 宮崎 千色 【小学二年】 中央 磯谷 莉空 綾里 山岸 夏椰 深山 遠藤 未菜	中妻 浅田 桜子 【中学二年】 広田 伊藤 玲雄 中央 伊藤 心優 小佐 佐藤 妃莉 【小学一年】 小佐 岡野 美緒 廣田 関戸 勇心 深山 小野寺 夏夏 【小学六年】 矢野 友悠 長谷 千葉愛菜美 米崎 覚張 成海 【小学四年】 小佐 佐々木 茜 矢野 佐々木 篠 福室 関本 咲彩 【小学三年】 深山 寺澤つぐみ	金賞	【高校三年】 高松 松田 紗輝 【高校二年】 高松 小淵 朔矢 高松 斎藤 祐玖 高松 伊藤 彩花 高松 村上 瑞季 【高校一年】 高松 佐々木彩花 高松 大内 琉生 高松 熊谷 樹 高松 岩淵 眞歩 高松 金野 碧衣 高松 大森 慧空 高松 佐々木 慧士 高松 大谷 鞍馬 高松 岡澤 徠生 高松 岡澤 琉花 高松 小坪 菜央 高松 佐々木心愛 高松 吉田 蒼馬 高松 原 ゆいら 高松 齊藤 心愛 【中学三年】 中井 下村 桜子 花卷 齊藤 晶 小友 荒木 栞蓮	墨州院特別賞	【中学三年】 小友 荒木 菜凜	サン・リア大賞	【中学二年】 中妻 金野 愛佳	特選	【高校三年】 高松 佐々木仁菜 【高校二年】 高松 熊谷 汐音 高松 白山 優奈 高松 今野 陽菜 高松 熊谷友里香 【高校一年】 高松 佐々木 侑緒 高松 葛西 姫依 高松 渡辺ひなた 高松 出羽 心咲 東高 藤田 琉花 高松 吉田 莉音
銅賞	【高校三年】 高松 菅野 童夢 高松 小松 高史 高松 佐野 勇斗 高松 千葉 貫太 高松 小松 太陽 【高校二年】 高松 村上 倅慧 高松 吉田 未来 高松 戸羽 眞譽 高松 金 眞敬 高松 常陸 勇飛 高松 菅原 春記 【高校一年】 高松 工藤純之助 高松 川原 悠馬 高松 横澤 僚 高松 新沼 寛人 高松 千葉 瑞咲 高松 佐々木 一平	【小学六年】 小佐 菊池 咲里 【小学五年】 小佐 菊池 咲里 【小学四年】 小佐 菊池 咲里 【小学三年】 小佐 菊池 咲里 【小学二年】 小佐 菊池 咲里 【小学一年】 小佐 菊池 咲里	【小学六年】 小佐 菊池 咲里 【小学五年】 小佐 菊池 咲里 【小学四年】 小佐 菊池 咲里 【小学三年】 小佐 菊池 咲里 【小学二年】 小佐 菊池 咲里 【小学一年】 小佐 菊池 咲里	【小学六年】 小佐 菊池 咲里 【小学五年】 小佐 菊池 咲里 【小学四年】 小佐 菊池 咲里 【小学三年】 小佐 菊池 咲里 【小学二年】 小佐 菊池 咲里 【小学一年】 小佐 菊池 咲里	【小学六年】 小佐 菊池 咲里 【小学五年】 小佐 菊池 咲里 【小学四年】 小佐 菊池 咲里 【小学三年】 小佐 菊池 咲里 【小学二年】 小佐 菊池 咲里 【小学一年】 小佐 菊池 咲里	【小学六年】 小佐 菊池 咲里 【小学五年】 小佐 菊池 咲里 【小学四年】 小佐 菊池 咲里 【小学三年】 小佐 菊池 咲里 【小学二年】 小佐 菊池 咲里 【小学一年】 小佐 菊池 咲里	【小学六年】 小佐 菊池 咲里 【小学五年】 小佐 菊池 咲里 【小学四年】 小佐 菊池 咲里 【小学三年】 小佐 菊池 咲里 【小学二年】 小佐 菊池 咲里 【小学一年】 小佐 菊池 咲里	【小学六年】 小佐 菊池 咲里 【小学五年】 小佐 菊池 咲里 【小学四年】 小佐 菊池 咲里 【小学三年】 小佐 菊池 咲里 【小学二年】 小佐 菊池 咲里 【小学一年】 小佐 菊池 咲里	【小学六年】 小佐 菊池 咲里 【小学五年】 小佐 菊池 咲里 【小学四年】 小佐 菊池 咲里 【小学三年】 小佐 菊池 咲里 【小学二年】 小佐 菊池 咲里 【小学一年】 小佐 菊池 咲里	【小学六年】 小佐 菊池 咲里 【小学五年】 小佐 菊池 咲里 【小学四年】 小佐 菊池 咲里 【小学三年】 小佐 菊池 咲里 【小学二年】 小佐 菊池 咲里 【小学一年】 小佐 菊池 咲里

墨州院ニュース	書展案内	スケジュール
墨州院最新情報 墨州院会員の活動情報 etc...	各種書展案内	墨州院行事&活動日程 主宰の主な予定 etc...

墨州院ニュース	書展案内	スケジュール
---------	------	--------

墨州院第37回東京展

日時：2024年2月5日(月)～11日(日)
会場：東京・銀座「ギャラリー向日葵」



流派を超え自由な書表現を求めて

墨生執筆：池田春苔、渡辺龍、池田一峰、福井清、池田金次郎、尾崎文、松本幸、池田代、佐々木、木、紅、藤、山、竹、小、中、大、金、佐、高、武、山、中、山

墨生執筆：池田春苔、渡辺龍、池田一峰、福井清、池田金次郎、尾崎文、松本幸、池田代、佐々木、木、紅、藤、山、竹、小、中、大、金、佐、高、武、山、中、山

主催：墨州院、墨生執筆会



本展は、主宰菊池春苔が大学進学・書修行での在京時に、書友や関東近隣会員と興したものであります。

拠点が岩手・大船渡という地方にありながら、この東京・銀座で書展を長きに亘り継続するということは、人員的・時間的・経済的に想像以上の負担・苦難を強いられるものと感じております。

創始メンバーは4名を残すのみとなりましたが、初回展前後に誕生した次世代、そして、私どもが創めた年齢となる未来の担い手、更に、大学で書を専攻する若手も出品をしており、スムーズなボタンタッチへのタイミングも近いことと存じております。

墨州院ニュース	書展案内	スケジュール
---------	------	--------

第40回記念雅誕会書展

日時：2024年1月6日(土)～11日(木)
会場：東京・有楽町「朝日ギャラリー」



雅誕会は、会派を超えて集う丑歳生まれの書作家による団体。

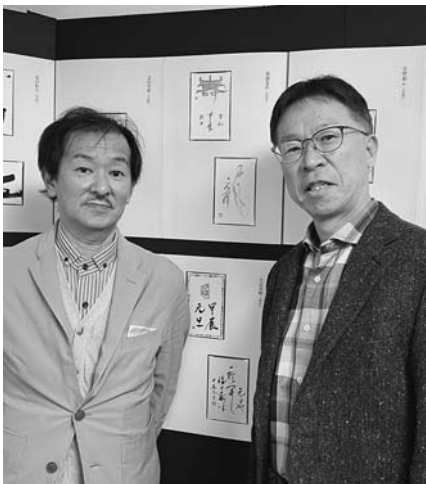
毎年、新年早々の開催で、各会派や世代間交流の場としても有意義な展示会となっている。

書道研究墨州院からは、主宰・会長菊池春苔が1961年（昭和36年）生まれの丑歳で出品。

※作品は1月号P2に掲載済。

書家による新春年賀状展

日時：2024年1月7日(日)～15日(月)
会場：東京・大崎「ウエストギャラリー」



年賀状は日本文化を代表する行事の一つで、この良き手書き文化を300年以上保存し筆文化を残し広めたいという趣旨で開催されている「書家による新春年賀状展」。

その趣旨に賛同している書道研究墨州院からも主宰・会長菊池春苔が毎年出品している。

※作品はP2に掲載。

第38回 書壇受賞に輝く作家展

日時：2024年2月6日(火)～11日(日)
会場：東京・銀座「セントラルミュージアム銀座」



出品：菊池 蒼雲

第38回 書壇受賞に輝く作家展

各団体の最高受賞作家による展覧会

●会期 2024年2月6日(火)～11日(日) 10:00～18:00(最終日は16:00まで)

●会場 セントラルミュージアム銀座 菊池 蒼雲 出品

主催 セントラルミュージアム銀座



おかげさまで78周年!! 書道研究墨州院 会員であることの誇りと自覚

歴史と歩み



創始者
きくち かいうん
故菊池海雲

昭和7年4月1日 福島県いわき市に生まれ、布団店を経営する傍ら、独学で書を学び、書道研究墨州院を創立。雅号は、「苔雲」であったが、親交のあった文化勲章受章者 故金子鷗亭氏が、「海雲」と允許。

■主な略歴

- ・毎日書道展漢字部審査会員
- ・日本刻字協会理事
- ・日本刻字展審査会員
- ・書道芸術院展篆刻部審査会員
- ・一瀾書道会董事

- 昭和21年 「苔雲書道院」開設（現 書道研究墨州院）
- 昭和30年 大船渡書友会（現 気仙書友会）結成
- 昭和38年 毎日書道展出品活動開始
- 昭和53年 「苔雲書道院」→「書道研究墨州院」
- 書道研究月刊誌『墨州』発刊
- 平成23年 菊池春苔が書道研究墨州院主宰・会長就任
- 東日本大震災で被災（3月11日）
- 平成25年 書道研究月刊誌『墨州』B5判→A4判に刷新
- 平成28年 書道研究墨州院本部・事務局再建
- 書道研究墨州院創立70周年記念式典開催
- 令和元年 書道研究月刊誌『墨州』創刊500号
- 令和3年 書道研究墨州院創立75周年
- 令和4年 書道研究月刊誌『墨州』創刊45周年
- ：



主宰・会長
きくち しゅんたい
菊池春苔

■師匠

菊池海雲・明石春浦
金子卓義・千田得所

■作品評価額 ※国際芸術家年鑑2021

約145万円（半折軸装）

■主な役職

- ・毎日書道展漢字部審査会員
- ・毎日書道展東北仙台展常任理事
- ・一瀾書道会副理事長・事務局長
- ・気仙書友会会長



活躍の場

書道研究墨州院では、展覧会活動やその成績などに誇りを持っておりま。

●毎日書道展

書壇の最高権威、書を志す者の登竜門と称され、毎年3万点を超える出品数で日本最大の書道展。
※書道研究墨州院から多くの会員が役員を務めているだけでなく、毎年全国トップクラスの成績を誇る。

●墨州院全国展

書道研究墨州院のメイン展で、全国の会員が出品する総数600点超の最大の展覧会。※45年以上の伝統を誇る。

●墨州院東京展

日本が世界に誇る街・芸術家にとってのステータス「東京・銀座」で、書道研究墨州院が主催する展覧会。書道研究墨州院の中央進出展と位置づけし、37年に亘り継続している。

●その他

一瀾書道会展、長野県現代書藝展、気仙書友会展、国際高校生選抜書展、サンリア展、墨州書初展、他多数



全国の頂点で活躍する書家集団

書道研究墨州院では、所属団体に関わらず、世界各地で展覧会を開催したり、日本の頂点で活躍している書家や専門家を積極的に招聘し、「流派に固執しない・古法を伝承する・新風も大いに導入していく、実力実績の純正書道」を提唱しております。



福島一浩

- ・日展会友
- ・二松学舎大学副学長
- ・全日本書道教育協会理事長



松尾碩甫

- ・日展入選作家
- ・中国美術学院留学
- ・全日本篆刻連盟評議員



金崎峰萃

- ・英国王立芸術家協会会員
- ・書道パフォーマンス甲子園発起人
- ・四国中央市紙のまち資料館元館長

その他

書道系大学出身者や中国・台湾などへの書の研修視察者も多数在籍している他、全指導者が書指導法免許取得者です。

全国に広がる安心のネットワーク

- 岩手県 大船渡市12教室／陸前高田市7教室
金石市3教室／盛岡市／矢巾町／一関市
北上市／花巻市
- 宮城県 仙台市
- 福島県 郡山市
- 埼玉県 上尾市
- 東京都 北新宿／西ヶ原／赤羽／駒込／神田
練馬／府中
- 神奈川県 横浜市3教室
- 愛媛県 四国中央市
- 学校教育 公立高5校／私立高／私立中
- 通信教育 全国網羅

—書道研究墨州院— インフォメーション

創始者



菊池海雲

主宰・会長



菊池春苔

書道研究墨州院は、1946年創立の菊池苔雲書道院を前進に「流派に固執しない・古法を伝承する・新風も大いに導入していく、実力・実績の純正書道」を提唱し、77周年を迎えました。また、1978年4月に創刊した書道研究月刊誌『墨州』は、46年を迎えました。これまで幾多の困難がありましたが、いかなる事業の中止や月刊誌の欠号もすることなく現在を迎えておりますことは最大の誇りでもあります。これも書道研究墨州院に集う会員皆様や関係各位のご支援ご協力あってこそこのことでもあります。

購読案内

購読されると無料で競書出品活動・書展出品活動ができます。

誌代 1年購読 7,200円 (送料1,200円)

半年購読 3,600円 (送料 600円)

※送料は送付希望の場合に限る。

※支部としてまとめた購読には割引がありますので問い合わせのこと。

※納入後の誌代・送料は返却しません。配本で代えます。

他部門への編入

本院で一般部段級位認定を受けたのち、他部門へ挑戦する場合は「新入」を経ずに「9級」から始められます。教育部会員が一般部(漢字部・ペン字部)へ出品する場合、下記の通り編入されます。

特待生・特待生候補⇒3級 高段位(五段以上)⇒5級

段位(五段まで)⇒7級 級位⇒9級

新規個人会員転入制度

新規個人会員で他団体から転入(移籍)希望の場合、転入審査により実力相当位から始められます。

※転入審査を受験されない場合は「新入」から始まります。

一般部転入審査料(十段まで) 5,000円

一般部転入審査料(五段まで) 3,000円

教育部・学生部転入審査料(段位以上) 2,000円

教育部・学生部転入審査料(級位まで) 1,500円

※段級位が証明できるもの(競書誌や合格證等)と該当部門の本院競書課題を添えること。

※支部としての転入の詳細は別途問い合わせのこと。

認定證交付規定

認定證(B3判)の交付希望者は姓名・段級位を明記の上、交付料を添えてお申し込みください。

認定證 5,000円

認定證(額装) 10,000円

※送付をご希望の場合は送料が別途掛かります。

通塾部

入会金 一般部 2,000円 (高校生以上)

教育部 1,000円 (中学生まで)

会費 地域・指導者によって異なる。

指導 本院認定指導者

通信部

入会金 一般部 2,000円 (高校生以上)

教育部 1,000円 (中学生まで)

添削料 半紙 300円/條幅 500円/ペン字 300円

※添削料はいずれも1回1種につき。

※添削期間は誌代期間と同一とする。

※返信用封筒(宛名明記・切手添付)を同封すること。

※全部門(手本付)の場合は通塾部会費に準ずる。

書指導法特設科

受講により指導者資格を取得できます。書の基本である古典臨書や書の歴史も学び、書活動の幅も広がります。

会費 3,000円(添削・手本・稽古付)

会場 岩手(大船渡)/東京(駒込)

指導 主宰・会長菊池春苔

※指導者は資格取得後も受講の義務有。

※資格取得者には、審査当番・揮毫当番委嘱制度有。

※通信添削にも対応する。

関東総局講習会

月1回程度開催する関東近郊会員への講習会です。

会費 3,500円/回

会場 東京(駒込)

指導 主宰・会長菊池春苔

各種展覧会

墨州院全国展・墨州院東京展・五百枝書道展

毎日書道展・気仙書友会展・他

各種揮毫・公演応募

作品・題字・名入れ・書道パフォーマンス公演・他

教室・講師派遣先

～いつでも・どこでも・どなたでも～約50教室・稽古日時のネットワークにより、最寄りの、系列教室・通信教育で指導が受けられます。指導には、中央一流書壇作家・書道専門学校出身者・書指導法特設科修了者が当たります。他会からの移籍も、団体・個人問わず、スムーズな受け入れ態勢です。

岩手

大船渡市(12教室)
陸前高田市(7教室)
釜石市(3教室)/盛岡市
矢巾町/一関市/北上市
花巻市/公立高(3校)

宮城 仙台市

福島 郡山市

埼玉 上尾市

東京

北新宿/西ヶ原/赤羽/駒込/神田/練馬
府中/公立高(2校)/私立高/私立中

神奈川

洋光台/磯子/港南

愛媛

四国中央市

総合案内

書道研究 墨州院 事務局

〒022-0002 岩手県大船渡市大船渡町新田44-15 TEL&FAX 0192-27-3406

URL <http://bokushuin.web.fc2.com> メール shodoubokushu@yahoo.co.jp

郵便振替口座 番号: 02330-9-3537/名義: 書道研究 墨州院 本部